

# Market Flash

2021年2月15日(月)

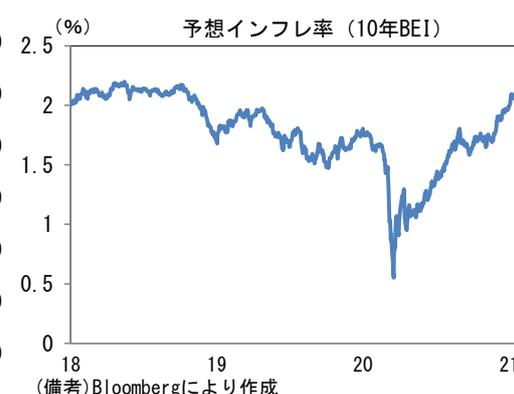
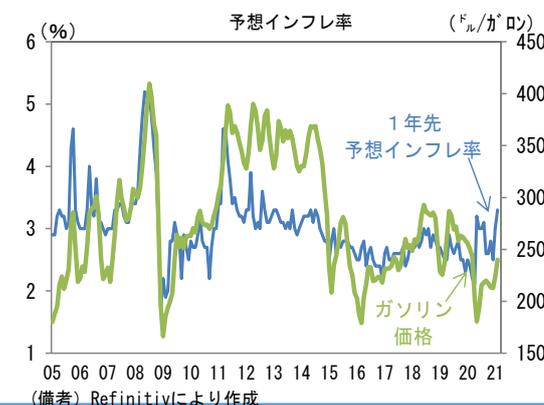
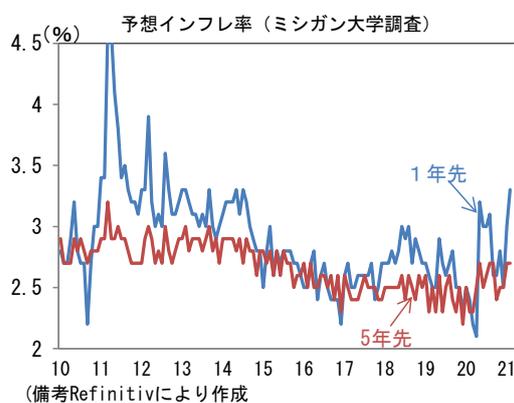
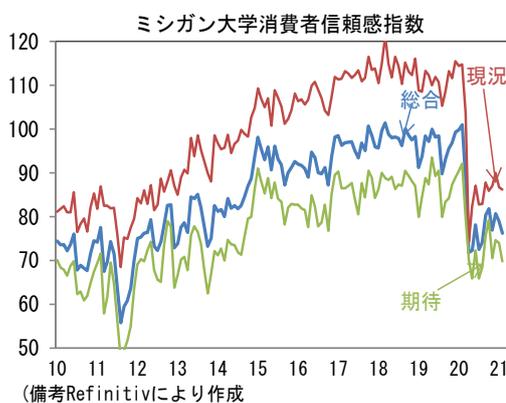
## イスラエルの定点観測 FEDはどうやって織り込むのか

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査  
主任エコノミスト 藤代 宏一 (TEL:050-5474-6123)

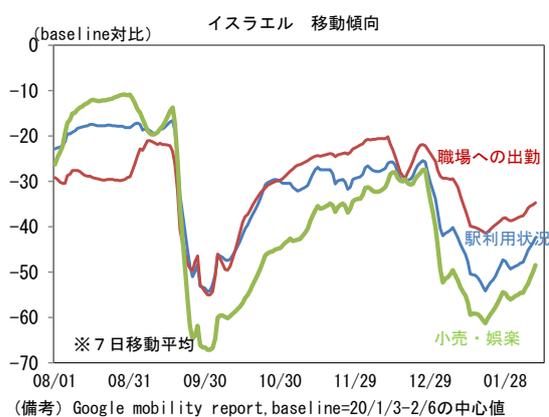
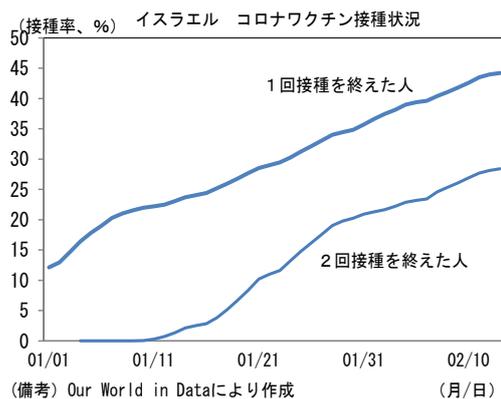
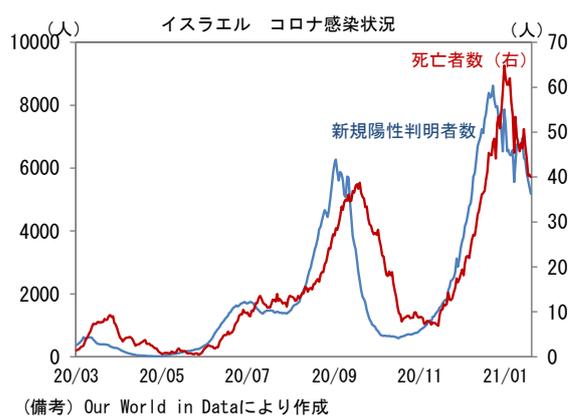
- ・日経平均は先行き12ヶ月28,000程度で推移するだろう。
- ・USD/JPYは先行き12ヶ月105程度で推移するだろう。
- ・日銀は、現在のYCCを長期にわたって維持するだろう。
- ・FEDは、2021年は現在のペースで資産購入を継続するだろう。

### <#イスラエル#コロナワクチン#接種率40%超え>

- ・前日の米国株は上昇。NYダウは(+0.1%)、S&P500は(+0.5%)、NASDAQは(+0.5%)で引け。VIXは19.97へと低下し、パンデミック発生以降で初めて20を下回った。社債市場はIG債(投資適格)が概ね横ばい、HY債(投機的格付)が堅調。経済指標はミシガン大学消費者信頼感指数が76.2へと低下。現況(86.7→86.2)、期待(74.0→69.8)が共に低下。予想インフレ率は1年先が+3.3%へと上昇し、2014年5月以来の高水準に到達。5年先も+2.7%と直近1年のレンジ上限で推移。ガソリン価格上昇に牽引された感はあるが、大型景気対策発動と経済活動再開を見据え、人々のインフレ形成が変化している可能性も指摘できる。債券市場のBEIも上昇傾向。



- ・米金利カーブはベア・スティープ化。2年は0.109%(±0.0bp)、10年は1.208%(+4.5bp)、30年は2.009%(+5.9bp)で引け。10年は1.2%の節目を突破。予想インフレ率は2.226%(+2.3bp)へと上昇した。為替(G10通貨)はUSDの強さが中位程度。USD/JPYは104後半へと小幅上昇、EUR/USDは1.21前半へと下落。コモディティはWTI原油が59.5<sup>ドル</sup>(+1.2<sup>ドル</sup>)へと上昇し、銅も8332.0<sup>ドル</sup>(+51.5<sup>ドル</sup>)へと上昇。一方で金は1821.6<sup>ドル</sup>(▲3.3<sup>ドル</sup>)へと低下した。安全資産「金」と景気の強さを反映する「銅」の相対価格(銅/金)は上昇。ビットコインは上昇。
- ・**日本の実質GDP成長率**(1次速報、2020年10-12月期)は前期比年率+12.7%と2四半期連続で2桁成長を実現(7-9月は+22.7%)。世界的な財需要の高まりを受けて輸出が好調に推移(外需寄与度+4.4%)。米国と中国向けの自動車に加え、IT関連財が伸びた。個人消費は、飲食店の時短営業の影響もあって(12月以降は)対面型サービス業が伸び悩んだが、その他のサービス業や耐久財消費の強さが補った。
- ・報道によると**日本**でも医療従事者を対象に2月17日から**ワクチン接種**が開始される。経済活動の正常化に対する期待が膨らむところだが、ワクチン接種の詳細な段取りは未だ明確に公表されておらず、現時点で正常化時期を探るのは難しい部分もある。
- ・そこでワクチン接種で世界のトップを走るイスラエルの状況をチェックしていくことは重要だろう。2月13日時点でイスラエルの接種率は40%を超え、2回目の接種を終えた人も30%近くに達した。一般的に集団免疫獲得に必要とされる70%にはまだ距離があるものの、接種を終えた人々については発症の劇的な低下が見られるといった報告が増えてきた。
- ・そうした下で新規陽性判明者数は1月中旬をピークに減少傾向にあり、それにやや遅行して死亡者数も減少に転じている。双方とも水準は20年夏のピーク時と同程度と依然として厳しい状況にあるものの、トレンド転換は明白である。当レポートではこれら前向きなデータとワクチン接種の因果について分析・予想を避けるが、一つの事実としてワクチン接種率上昇とコロナ感染状況の好転が同時に観察されたことは朗報と言える。
- ・またそうしたなかで人々の移動も復活しつつある。小売・娯楽施設への往来、駅利用状況、職場への通勤は未だ低水準ながらも2月入り後は上向きのカーブを描いている。背景にはコロナ感染状況の好転を受けてイスラエル政府が2月7日に外出制限を一部解除し、自宅から1キロを超える場所への移動を可能にしたことがある。飲食店の店内営業、学校は再開しないなど厳格な措置はなお残存しているが、3月9日頃には飲食店の営業を更に緩和し、キプロスとの往来も再開する方針であるという。
- ・今後、日本のワクチン接種が進む過程ではイスラエルが辿った軌道を参考にしていきたい。また米国のワクチン接種率が上昇していく過程でFRBがそれをどういった形で経済見通しに織り込み、金融政策に反映させていくのかを注視する必要がある。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。